

伊台地区タウンミーティング

平成24年5月25日（金曜）

【市長】 皆さんこんばんは。今日は平日の夜間でございます、お仕事でお疲れの方もおられますのに、このように多数の方がご参加いただきありがとうございます。開催に当たりましては、伊台公民館の岡本館長さん、そして伊台地区広報委員会の吉田会長さんほか役員の皆様にはご協力をいただきました、ありがとうございます。さて、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、松山市は41の地区に分かれます。それぞれに公民館が置かれているわけですが、41地区が集まって、ひっくり返すと14になりますけど、ごろ合わせで「伊予」ですね、41地区が集まって「伊予」を形成していると覚えていただいたら覚えやすいかと思います。私が就任をさせていただいてから、職員の立場からいいますと市役所で皆さんが来られるのを待ってるほうがどちらが楽かという楽です。はたしてそれでいいんでしょうか、どうせなら私たちのほうから各地区に出かけていきませんか、と申しまして開催をするようになったのがこのタウンミーティングでございます。各地区ごとにやっております、今回は26地区目の開催ということになります。おかげさまで好評でございます、これはなぜかという、皆さんからいろいろなお声をいただきますけど、すぐに反映できるものはすぐに市政に反映をしていきます。そういったこともありまして、今年度中には全地区を回り切りたいと思っております。職員たちにはもう一つ頑張ろうやということではかけ声かけてやっておるんですけど、私たちが地区に出ていくのが一つ、もう一つこの松山版のタウンミーティングは「やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない」というタウンミーティングでございます。ここで出たことを聞いたふりをすれば楽ですけど、それはいたしません。この場でお答えできることはこの場で必ずお答えして、中にはいったん持ち帰らせてもらうものもございます。それは、例えば国と絡むもの、県と絡むもの、また財政的な問題があるものそういったものもございますので、例えば国や県と絡むものでしたら、いっぺん国や県に問い合わせをします、そして答えが返ってきます、そして市の考え方をまとめて地区にお返しをするという形になりますので、大体めどが1カ月頂戴する形になりますけど、1カ月をめどに必ず地区に答えをお返しするのが松山版のタウ

ンミーティングの特徴でございます。松山市の仕事って本当に幅広い範囲に及びます。例えば図書館もありますし、松山市立小学校、中学校もありますし、上水道、下水道もあります。競輪場もあります、坊っちゃんスタジアムもあります。いろんな分野にまたがりますが、それぞれの専門家がおります。担当の部長、企画官、課長が来ておりますので自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングを統括しております。普段の仕事と申しますと窓口サービス、市民課とか22支所7出張所、パスポートセンター、市内の3つのデパート、スーパーにあります市民サービスセンター、消費生活センターで窓口サービスをさせていただいております。地域における住民主体のまちづくりとか、男女共同参画、人権啓発こういった多種多様な仕事をしております。本日はよろしく願いいたします。

【社会福祉担当部長】 皆様こんばんは、保健福祉全般を担当しております、社会福祉担当部長の大濱でございます。本日はよろしく願いいたします。

【環境政策課長】 皆さんこんばんは、環境政策課長の大野と申します。環境部では地球温暖化対策とかごみ処理の問題、自然環境の保全そういったような仕事をしております。本日はどうかよろしく願いをいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では、道路、公園などの整備、及び維持管理を行っております。よろしく願いいたします。

【産業政策課長】 皆さんこんばんは、産業政策課長の大崎と申します。産業経済部では、観光客の誘致、地域経済の活性化、農林水産、農林土木関係の事業を展開しております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【消防局企画官】 皆さんこんばんは。消防局の岡本でございます。消防の火災救助、救急、地域防災の自主防災組織を担当しております。今晚はどうぞよろしく願いいたします。

【市長】 最後の消防の岡本企画官はもともとレスキュー隊員でありまして、それぞれの専門家ということになります。さて、いよいよタウンミーティングに入っていきますけど、このタウンミーティングは大きく3つに分かれておりまして、最初は各地区の魅力からしゃべっていただくことになっております。これは、は

よ市長に課題や問題点とか聞いてほしいのに何で魅力から聞くんぞと思われるかもしれませんが、この魅力というのが大事なんです。なぜかという、先ほど松山市は41地区に分かれると申し上げましたけれど、その各地区の魅力を一番知っているのは誰でしょうか。行政でしょうか、それとも皆さんでしょうか、それはやっぱり地区にお住まいの皆さんですよね、各地区に歴史があって各地区に魅力があると思います。その魅力を活かすまちづくり、その地区の宝を磨いたまちづくりができればその地区はより輝くと思います。それを行政が主体でまちづくりやっけてしまいますと、41地区、いったら金太郎あめのような地区が41できてしまう、その41の集合体の松山市はおもしろくないですよ。それぞれの輝きを持ってるんですから、それぞれの魅力を活かしたまちづくりができると、その41の集合体である松山市はより輝くと言えらると思います。ですので、皆さんでこの伊台の魅力について再認識をしていただいて、その魅力を活かしたまちづくりをしていただいたらと思います。その後は課題、問題点などについて教えていただいたらと思います。今日はどうぞ前向きな議論ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 まずもって野志市長さんはじめ市の関係職員の方々に、夜分にかかわりませずお越しいただいたことに厚く感謝、お礼を申し上げます、ありがとうございます。時間の関係もありますのでさっそくですが、伊台の魅力について説明をしたいと思います。5点にまとめておりますので、朗読しながら説明させていただきます。伊台地区は中山間地帯に位置してかつ県都松山市の中心街に車で15分から20分と近く、閑静な環境から近郊住宅地帯として発展しており、公民館、町内会組織等を中心に、新興団地住民と地元住民との一体感のあるコミュニティ活動でより住みよいまちづくりに向け日々邁進しているところです。以下、5つの魅力について説明します。第1、地域産業としての農業。農業産出額は松山市内校区別の上位で頑張っており高齢化の進む中、認定農業者はじめ後継者の確保に努めているところです。特に夜間冷涼な気候を活かしたブドウ栽培は80有余年の歴史を有し、特にニューピオーネは「まつやま農林水産物ブランド」認定を受け、県下でもトップブランドとして農家経営を支える一方、多くの消費者に初秋のおいしいブドウとして親しまれております。第2点、薄墨桜まつり。千余年の歴史を誇り、松山市天然記念物に指定されている薄墨桜のもとで毎年花祭

りを行っております。校区民はもとより小中学校の先生ほか、校区内関係機関の方々の出席も得て花見の宴を盛大に開催しております。地域の子どもによる伊予万歳あるいはカラオケを楽しみながら、お互いの情報交換と絆の強化で明るいまちづくりの一助としてしているところです。第3点、校区大運動会の俵送り競争。これは運動会のメインイベントとして分館対抗で、10チームが参加して毎年大型連休の前半に実施しています。1チーム5人で青壮年の体力と俵送りの技を競う迫力は伊台独特の競技で、今後とも続けていきたいものでございます。第4点、分館対抗新春かるた大会。5分館対抗でスタートした新春かるた大会は今年で40回目の節目を迎え、参加チームも新興団地の参加で倍増の10分館対抗となっております。当初は元旦開催でしたが、10年前より成人の日で開催をしております。開催が近づくと、各分館で練習に取り組む読み手、取り手の威勢のよい声が大会ムードを盛り上げ、伊台のよき文化として根づいているところでございます。第5点、盆踊り大会。昔は分館ごとにも開催しておりましたが、現在は本館のみで開催ということです。全地区より踊り好きの老若男女の参加を得て、毎年8月にJA広場で開催をしております。夜店で金魚すくいに興じる親子、かき氷で涼をとる人、踊りの合間に情報交換と心身の充電で暑い夏を乗り切っております。以上、伊台ならではの産業やイベントを紹介いたしました。伊台地域の末永い発展へ向け、松山市のご指導ご支援方をお願いし、私の説明を終わらせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【市長】 ちょっと私から言わせていただきます。これ知らなかったです、ありがとうございます、教えていただいたって本当に思っています。もちろん松山農林水産物ブランドに伊台、五明の高原ぶどうは認定させていただいておりますので、もちろんニューピオーネのことは知ってたんですけども、薄墨桜まつりも知ってたんですけど、俵送りは知らなかったですね、これは見てみたいと思いました。私もこの立場いただいてから各地の文化祭とか運動会に時間ある限り行かせていただくんですけど、それぞれいろんな競技あるんですけど、俵送りはなかなか見たことないですね、これ、ならではというか、見てみたいなと思いました。あと今、10分館対抗、40回を迎えるかるた大会も、松山弁で言うたら「どこまりない」と思います。盆踊り大会もそうですね。各地区で皆さん悩みが、特に新興住宅の方と元々住んでる方のつながりですね。やっぱり意識も違う部分もあ

ってコミュニティの醸成がとても難しいって言われるんですけど、そういうつながりがあるというのは素晴らしいことだと思います。これは活かしていただきたいと思います。特に本当に介護にしても子育てにしても、今や個人とか孤独が目立つ世の中になってきているんですけども、個人とか孤独、これも「こ」ですよ、もう一方のほうの「CO」は横文字で、コミュニティとかコラボレーションとかいう言葉があります。そういうつながりのない時代から、いわば昭和のようなつながりのあった時代に雰囲気に戻せていけたらと思っていますので、つながりのある伊台というのは素晴らしいと思います。ほかにありましたら、どうぞ自慢してください。皆さんでそれぞれにここええなと思っていることがあると思いますので、それぞれ大事にさせていただいて、伊台ならではの魅力づくり、まちづくりをしていただけたらと思います。

【男性】 当地区はブドウに代表されます落葉果樹、さらにかんきつ等果樹栽培を基幹とした農業経営をされている方がたくさんおいでます。ところが果樹栽培、急傾斜地が多く、肥料や果実の運搬に多くの労力を要しております。園内道の路面整備の事業を支援をしていただきまして、現在までに14カ所支援がなされまして舗装工事も完了、省力化、合理化に多大な効果があったと感謝をしているところです。今後もこの制度の継続をお願いをいたすところでございます。しかしながら農家は高齢化が進み、限界集落の心配もある地域もございます。そういう地域は事業の申請をして、原材料を支給をしていただきましても、さあ工事をするいうても人手が集まらん、年寄りぎりでしょうせんと。そして、若い人がお休みの日曜日にしようか、そうしますと今度は生コン会社がお休みじゃけん来んよと。とにかく工事をするんに大変難儀をしるところです。そこで既設園内道の路面整備実施については、受益者が作業するのが本当の姿だとは思いますが、このような事情がございますので、工事を請負契約に頼らなければならない、そうしなければ工事ができない、そういうところもございますので、原材料の支給と手間代をも含めた支援をしていただけたら非常にありがたい、このように思います。ひとつよろしく申し上げます。

【市長】 はい、それでは私のほうから。私は皆さんと顔を見ながらお話をしたいので立ってしゃべらしていただきます。それぞれの担当は手元に細かい資料がありますので座ったままになりますことお詫び申し上げます、お許してください。

この園内道路、今お話聞いてて、確かにみんな作業するんやったら日曜日でしょう。で、日曜日にしようと思ったら生コン屋さんが、というのは確かになと思いましたが、担当からこれまでの経緯を説明させていただきます。

【産業政策課長】 原材料交付事業につきましては、農道や水路など農業施設の維持管理における改修や修理、修繕などについて、各施設の利用戸数が2戸以上の場合に原則として原材料を出させていただいております。今言われたとおり、確かにどこの地区も高齢化が進んでおりまして、原材料はお渡しするんですがなかなか工事ができない、何とかならないものだろうかというご意見もいただいております。先ほど言われたように、日曜日であればできんこともないんだけども業者さんがお休みだということをお伺いしましたので、担当課が農林土木課になります。日曜日で生コンが運べないかどうか、そういったところを聞きまして、またお返事を返したいと考えております。ただ大変申し訳ない、今まで土地改良区とかにお願いして原材料はお渡しするんですが、地元で何とかというお話はさせていただいておりますので、できる限りご協力を今後ともよろしく願いしたらと思います。

【市長】 生コン業者の日曜日の関係とかもあります、いったん引き取らせていただいて、またお返事をさせていただくという形でさせていただきます。

【男性】 伊台土地改良区を預かっております。市長さんにはご就任以来、伊台地域に関し日ごろ支えていただいておりますことを厚く御礼申し上げます。今日は、ため池改修についていろいろとお願いしたいと思っております。現在、伊台地区では市の指定を受けて中山間地域総合防災整備事業により、平成19年度よりため池改修を4カ所の指定を受けて始めております。あと2年で第1期の工事が終わる予定でございます。その後につきましては第2期の工事をお願いをしておりますが、第2期工事についても4つため池の指定をしていただき、準備作業をしていただいております。しかし伊台には土地改良区が預かっておるため池が40カ所ほどあります。その中にもまだまだ改修が必要な池が点在しております。今後ともにご配慮の程をお願い申し上げます。また伊台については松山市の上水道の供給エリア外になっておりますが、ため池は本来農業用水のためのものでございますが、地下水にはこのため池が与える影響は大変大きいものがございます。そのためにも、引き続きのため池改修をお願いしたいと思っております。

おります。またそれに伴いまして、改修に対する地元の負担金が農業の過疎化とともに、また高齢化も進み大変地元にとっては重荷になってございます。そこ辺の、これからも一層の地元負担の削減を考えていただきたいと思います。また、ため池の有効利用により、伊台川に水の流れを保ちますと、石手川の補助水源としての効果も大であり、今までにもその成果は実証済と思っております。そこらを含めて、今後ともため池改修にご高配を賜りますようお願い申し上げます。

【市長】 ため池の改修についてご意見いただきました。やはり皆さんも心配されるところだと思いますけども、南海地震というのが心配されております。老朽化しているため池が地震をきっかけに、なんてことがあってはいけませんので、しっかりとこれからもやっていこうと思っております。具体的な事柄については大崎企画官から話をいたしますけれども、今耐震化でいろいろやらなければならないところがあります。耐震化というとため池の補修だけではなくて、少子高齢の時代ですので子どもの数が少ない、子どもの数が少ないと将来を支える人たちが少ないということですから、やっぱり子どもは大事にされないといけない。小学校、中学校は子どもが長い時間を過ごしますので、小学校、中学校の耐震化、これ松山は平成29年度からやろうとしてたんですけども、平成23年度からの耐震化に大きく前倒しをしたところなんです。まさに有効な公共工事だと思っておりますので、小学校、中学校の耐震化。あと公民館の耐震化、公民館もやっぱり避難所になりますので、小学校、中学校の耐震化、公民館の耐震化、そして消防団。いざというときに、地震で出ようと思っても出動できないといけませんので、消防団のポンプ蔵置所の耐震化のできてないところをしなくちゃいけない。災害時に水が出ないといけませんので、水道管の耐震化もしないといけない。そして先ほど申し上げたようなため池、いろいろと耐震化をしないといけない状況ではありますけども、ため池の改修のことについて大崎企画官をお願いします。

【産業政策課長】 中山間地域総合農業防災事業につきましては、愛媛県に確認したところ平成25年度末に完了をする予定となっております。まだ本市が実施しております団体営事業、伊台・浦池地区につきましては平成26年度から、民部池地区につきましては27年度の事業採択を目指し、地元関係機関と調整を進めているところです。先ほど新しく4地区と言われたんですけど、先ほど市長も

申し上げましたように、今後予想される南海地震等の発生による災害が懸念される中、市民の安全安心を守るためには、その他の老朽化が著しいため池につきましても、緊急総合的に勘案した上で事業決定をしていきたいと考えておりますので、今まで土地改良区でお話していただいていると思うんですけど、引き続きご相談していただければ、農林土木課で今後の対応について考えていきますので、よろしく願いいたします。

【男性】 引き続き農業関係の話になってしまうんですけど、まず中山間地の直接支払制度につきましては、大変お世話になっております、ありがとうございます。これは大変うれしいのでこれからもお願いしたいんですけど、伊台地区も今、後継者出てきとんで、国からええ政策下りてきとんですけど、あの文書見よったら、水田地帯の農地集めてという書き方になつとんで、伊台地区どこまで範囲広げてくれるんかわからんですけど、使いにくいところあるんで、また県、国に機会ありましたら山間地にも使いやすい制度に対応してもらえたら思うんで、その点どうかよろしく願いします。

【市長】 はい、わかりました。松山市としても、まず農林水産業、第一次産業、やっぱり大事ですよ。国自体を考えたときも食料自給率が大事です。今、カロリーベースで日本の食料自給率は確か40パーセントだったと思うんですけども、ほかの先進国でいいますと、80パーセントくらい自分の国で食料自給できますよっていう国もあれば、140パーセントなんていう国もあります。つまりどんどん輸出ができる国もありますけども、日本は40パーセントしかありません。ですから農業はこれからも大事だし、農業が大事ってことはやっぱり後継者ももちろん大事ってことになります。松山市にとっても農業の担い手がないということでは困りますので、担い手をこれからもつくっていききたいですし、60歳で退職になって農業もしてみたい方もいらっしゃるんで、そういう方も農業に入りやすい環境も考えていきたいと思っております。これも大崎企画官ですね。

【産業政策課長】 農業の方々には、非常に農業振興にご尽力常々されているのは理解しております。そして重労働に対して低所得であると、高齢化も進む中で後継者不足、担い手不足が問題になっているのは、今後の農業施策における重要事項の一つであると考えております。6月1日号の広報に、新規営農者の支援をはじめますということで、人・農地プランが載るようになっております。独立自営就

農時の年齢が45歳以下であるとか、年収が250万円以下であるとか、人・農地プランに位置づけられている方、いろいろ制約があるんですけども、これをクリアいたしますと給付金額が年間で150万円、5年間継続して受けられる制度が今年度から始まります。7月以降に事業展開をしていくんですけども、まず6月1日号の広報に書いております。問い合わせ先が農林水産課、電話番号も書いております。一度見られて、本当に今から若手の方が農業をしていくんだということがありましたら、ご相談をしていただけたらと思います。

【市長】 先ほどありましたように、使い勝手が悪いところがあるというお話は確かに承りましたので、はい、ありがとうございます。

【産業政策課長】 これ田畑だけではなくって果樹園についても採択されると聞いております。ですから放置竹林、使っていない果樹園なんかも、若手の人が引き受けて自分がやりますと手を挙げたら使えるという制度ですので、お伝えしておきます。

【市長】 私も皆さんご存知のように民間からこの立場をいただいた人間です。役所に入って見ますと、結構できることってあるんです。皆さん、「どうせできんやろ」とか「無理やろ」とか思われるかもしれませんが、役所に、「こんなことしてみたいんやけどなんかいい方法ないやろか」とか「どんなやろか」って相談していただくことって大事だと思うんですよ。「どうせできんわい」って思うより、相談しただくと、こんな制度もあるんですよってご説明させていただけることもあります、結構いろんな制度もありますので、ご相談していただくのがよくなって思います。お願いします。

【男性】 今の市側のお答えと関連するのでお願いするわけですけども、優良農地の確保についてですが、この伊台地区は水田よりも主体が果樹園です、傾斜地果樹園でございます。そういったところが高齢化、あるいは年をとるとリタイア組がどんどん増えておまして、耕作放棄地、イノシシの巣になるといったのが実情でございまして、急傾斜はこれはもうしょうがないと思いますけども、いわゆる優良農地、傾斜度の緩やかな、こういったところについての確保対策、どういったことをしたらいいか、私なりの考えですけども、受託、委託、JAでもやるところもあります。県内では西宇和青果へ行きますと受託者、委託者を何百人ずつ募りまして、耕作放棄の手を挙げたところから、調整をJA、行政

の協力を得て、やっておるということでございます。松山市においても農林水産課が主になると思いますけれど、受託、委託の関係を、JAだけではなかなか厳しいところがございます。行政が入りますと信頼がまた深まると思いますので、行政含めて、JAと含めて受託、委託の希望者募り、先ほどの人・農地プランの内容詳しくはわかりませんが、あわせて、優良農地を荒廃させないように極力維持していく形、そういった受委託の輪を広げて、行政のご支援をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

【市長】 はい。これは耕作放棄地再生利用緊急対策交付金制度がありまして、また大崎企画官、申し上げます。

【産業政策課長】 伊台地区に限らず、放棄地は増えております。先ほど言われたように放棄地を使いたい人、貸したい人がおりまして、JAはそういったところで2者の間に入っていただいているんですけど、なかなか役所が民民の話になると一歩踏み出しにくいところがあるんですけども、言われたように農林水産課にこういった意見を伝えまして、もし相談があったらまた検討するよう申し伝えますので、ご理解いただけたらと思っております。

【男性】 耕作放棄になる前の善処策ということですか。

【産業政策課長】 なるほど、わかりました。はい。

【市長】 はい、これも承りましたので。ありがとうございます。

【男性】 民生委員と福祉協議会兼ねております。実は民生委員が改選されて2年目になるんですが、とにかくその仕事の量、ここまで民生委員がせないかんのかということまでが民生委員にかかってくるので、ここらあたりを。民生委員になってこない勉強せないかんのやったら誰もせんぞいうようなことが多いんです、実は。研修会も、認知症の研修会こっちでもある、こっちでもある、そこへ皆行かないかんということなんで、ここらあたりの調整をうまいことしていただいたら、もう少し仕事が減るんじゃないかなるか思ったりするんですね、今、高齢者で一番困るのは、バスがここまではあるんですよ。ここから上がほとんどございませんで、病院へ行こうと思ったら一日がかりで、朝行ったら晩まで帰れんいう状態が続いておりますので、なんとかコミュニティバスを出してくれまでは言いたいです、そこらあたりを何とか考えていただけないかということですか。

【市長】 民生委員さん本当に頑張っているのはよくよく存じ上げて

おります。というのが、私の義理の父が民生委員を長くさせていただきまして、地区のお世話役として民生委員の方々に動いていただいているのは本当にありがたいと思ってます。研修あっちこっちに、担当は大濱部長。精査できるものはしたいですね。このあたり部長どうでしょう。

【社会福祉担当部長】 民生委員の皆様には、日ごろいろいろと福祉行政についてご迷惑をかけております。また福祉以外についても民生委員さんにその地区のご事情をいろいろと知っていただいております。ご署名をいただいたり内容の確認をいただいたりということでご迷惑をおかけしております。今、市長からも申しておりますが、各種研修については持ち帰らせていただいて、どのような研修が今あるのかというようなことも含めて、検討をしてみたいと思っております。ただ民生委員の方々に一番ご迷惑をかけておる福祉行政の中で、やはり一番その地区のご事情を知っていただいておりますのが民生委員さんだと私どもも思いがございまして、いろいろとご迷惑をおかけしておりますが、今後ともそういった精査をしてみたいと思いますので、ちょっとお時間をいただいて、私どもも検討する時間を持ちたいと思います。

【市長】 もしかまわなんたら、もし言いにくくなかったら、この研修とこの研修重なったとるけん何とかならまいか、というようなこと具体的に大濱部長に言っていたら、このタウンミーティングで、こういうやり取りだけじゃなくて、8時半終わっても、例えばここの道がちょっと危ないけん見てもえんやろかっていうのもいただいております。もしそういうこともありましたら、この後使っていただいて、言っていたらと思います。バスのことですけど、今日が41地区のうちの26地区目のタウンミーティングですけど、やっぱり各地で「市長、バス何とかしてくれんやろか」っていうのを聞きます。たしか伊台は1日15、6便あったと思いますが、松山地区でいうと伊予鉄道さんになりますけども、バス事業でいうと年間確か数億円規模の赤字なんです。ですので伊予鉄道さんとしてはもうこれ以上はちょっと難しいというお答えになってしまうんです。でも、だからと言って松山市が何もしないというわけではございまして、松山市と伊予鉄道と地元の方の3者で、バス路線を地元の方が「こうしてくれたらもうちょっと使いようなるんやけれども、何とかしてくれまいか」っていう会をつくって地区ごとでやってることがございまして、またそういう対応もできるかということ

で、バス事業者さんからするとバス単体では赤字じゃけん、これ以上はちょっと難しいという答えになろうかとは思いますが。担当は白石課長、ちょっと補足をお願いします。

【都市政策課長】 今市長が説明しましたとおりでございます。そういうご相談につきましては総合交通課で、お話聞かせていただければ、何かまたいろいろ考えられることも出てくると思いますので、よろしくをお願いします。

【市長】 はい。これもまた上手に課のほうに言ってもらえたらと思います。

【男性】 鳥獣害の被害対策についてひとつお願いをいたします。とりわけイノシシの被害かなりひどいものがありまして、最近は家の近くまで出てくる状態が続いております。23年度から松山市の鳥獣害の駆除事業という事業に乗っかりまして、農協支部と猟友会と協力しまして補殺に努めましたところ、90頭を補殺をいたしました。その後、猟期がございましたので多分100頭以上のイノシシを駆除したと思います。伊台ではこれだけやったんじゃけど、伊台だけでは進みませんので、ほかの地域からも行くこともあるし、来ることもあると思います。この事業続けてやってもイノシシはゼロにはならないと思います。引き続きお願いをしたらと思いますのでよろしくをお願いします。

【市長】 はい、わかりました。これについても私の思いのあるところなのでしゃべらせてもらいますけども、1年半前に出馬をすることになって、各地区巡らせていただいて言われたのが、山間部また島しょ部、島でもそうです、「野志さん、イノシシなんとかしてや」「猿もなんとかしてや」「シカも」というところがありました。今、鳥獣被害防止対策協議会を、県と農協と猟友会で一緒になって、そういう会をつくらせていただきました。今どんな鳥獣対策を松山市がしているのかといいますと、特にイノシシ、猿でいいますと、大体1年間にこれくらいのお金ということで、例えばイノシシを捕獲したら1頭2万円、猿が3万円になります。そういうお金をお支払いするということをしてきたんですけど、その枠が小さかった、枠に来ちゃうともう終わりということになるので、その枠を広げました。19年度は111頭、イノシシ、松山市全体で。20年度が274頭、21年度が257頭、22年度が524頭、23年度が763頭。かなり捕ってはいるんですけども、その分予算は膨れているわけですね。かなり捕っているんですけども、なかなか減らない、猪が1回に1頭産んでくれるんだったら、

話は簡単なんですけれども、何頭も産むところが痛いところで、もちろん枠も増やしますというのと、狩猟免許を持ってる方が大分高齢化しているので、農業の方が狩猟免許を持つのが大事ですので、狩猟免許を取るときに補助を出して、できるだけ狩猟免許を持つ方が増えるように。そして最初個人で柵を設置した場合に補助ができるようになってたんですけども、個人だけじゃなくて共同で柵を設置したら広がるじゃないですか、柵が。なので共同で柵を設置された場合でも補助が出るようにと、いろんな方策で補助をしているところです。いろんな方策というと例えば、私もいろいろ情報を収集するんですよ、畑にぶら下げる札があって、それには唐辛子のエキス、カプサイシンのエキスを染み込ませとったら、イノシシはそれで嫌がるんだそうです。こういう商品があるよって農林のほうに言いましたら、効果が3カ月しかもたないんだそうで、最初はちょっとだめだなんて言ってたんですけど、農林のほうから「市長、3カ月だったら収穫のときだけ置いてれば効果になるじゃないですか」と。「実が開くくらいから置いてれば3カ月たてばいけるじゃないでしょうか」ということで逆に農林のほうから話もらったこともあります。また、こないだ九州大学の記事が出てたんですけど、イノシシ、普通の肉として焼いたり煮込んだりする食べ方もありますけど、ソーセージにして食べると結構いいということも出てましたのでこういう再利用なども含めて、これからもあきらめることなく、せっかく長いこと時間かけてつくってきた作物を最後の最後でやられるのはたまらないと思いますので、私自身も北条が実家で農業体験がありますので、農業がどれだけしんどいか、朝早くから暑くなるまでに動くとか、夜も選別するとか、運ぶの重いとか、かゆいとか、椅子があるとかないとかやっぱりそういうしんどさは知っているつもりですので、これからは有害鳥獣対策はやっていこうと思っております。大崎課長、何か補足はないですか。

【産業政策課長】 一つだけ言われなかったことを。狩猟免許で、市が補助を出して、23年11月までに16名が狩猟免許を取得しております。それによりまして少しは猪被害が減るのかなと思いますので、興味のある方は農林水産課までご連絡をよろしく願いいたします。

【男性】 今日は私が住んでおる本村という地域限定版で発言したらと思います。道後温泉から山向いて坂を上ってわずか10分ほどの27戸の小集落なんですすけ

れども、2年前に調べましたところ、80人中65歳以上が38人と47.5パーセント、うち20人、4人に1人が80歳代と。年齢要件では限界集落には該当しませんけれども、限界集落突入直前集落みたいなものと言えるのではないだろうかと思います。この松山市にも既に突入しているところもあるでしょうし、日浦とか五明とか北条など、あるいは伊台でも本村の後を追っかけてきそうな集落があります。伊台については市街化調整区域という制度的な問題も大きいんですけど、それはさておくとしまして、限界集落という日本語表現はなんか病気の人に弱っているでしょうというようなもので、私は抵抗を感じておるんですけども、小さい集落は小さい集落なりに声を掛け合って実質14、5軒で4、500軒の分館と対抗戦をしたり、役員は掛け持ちと長持ちでしのいだり、老婦人同士で毎月寄りを持ったり、宝くじの助成事業で太鼓やのぼりをつくったりとか、中には電動車いすで総出の役に参加してくれたりとか、このような私たちの集落以上に踏ん張る集落いうか、おっとどっこい集落が松山市やその周辺に散らばっているのではないかと考えております。農地、水とか中山間地の直接支払制度など国の制度は別としまして、似たような環境で先に行く集落の知恵と工夫と経験を集めて、市のほうが、どんどん情報発信していただくことによって、それらを参考にしながら、最後は自分たちでその方向性を決めないといけないと思っておりますけれども、私たちなりに集落共同体の存続をかけた最後のあがきをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【市長】 長持ちとか掛け持ちとか、上手に楽しく言っていただいてありがとうございます。あがきをしたいと言ってくださいました、本当にありがたいことです。というのが、最初に司会からも話しましたけれど、車の両輪だと思いますので、行政も動くし、皆様方民間の方も動いていただくのがすごく大事なことです。ですので、最後のあがきをしたって言ってくださったの非常にありがたいことだと思います。限界集落なんておっしゃってましたけど、これはいわゆる過疎地対策ですかね。三好部長。

【市民部長】 過疎なんておっしゃられましたけど、今日車で来るとき、15分かからなかったですね、だから本当に過疎といって切り捨ててしまうにはもったいない、農業とかきれいな瀬戸風峠の眺望とかいろいろな資源があると思います。今、宝みがきということで事業進めてますけど、過疎ということで後ろ向きにな

るんじゃないくて、プラスの部分あると思います。今、地域における住民主体のまちづくりという事業やっているわけですけど、まちづくり協議会つくってみんなでもまちづくり計画つくって、みんなで豊かな地域にしようというのあるんですけど、逆に言うと、そういうところで、そういう活動含めて提案していただきましたら、我々も何ができるかという政策のキャッチボールもできますので、過疎という後ろ向きの感覚よりも、足らざるところをどうすればいいのか、この地域の特性をどのくらい伸ばせていけるのか、逆に前向きの議論していくと、いろいろなヒント、キーワードが見つかって、もしかしたら大きなものに化けるかもわからんと思っていますので、答えになっているかどうかわからないと思いますが、皆さん自信を持っていただきたいと思います。

【市長】 私はこの立場をいただくために前の仕事をしとったわけではなくて、20年の仕事の中でいろんな地区のまちづくりを見てきました、これが今の私の財産になっています。例えば南予のある町では、花のまちづくりをしているところがあります。話聞いたら「野志さんな、花みんな喜ぶもんじゃろ、で、軽かるがな、重いものやなかる。みんなで世話して愛着がわくもんじゃけん、花のまちづくりしてみようと思たんよ」。花の時期になったら皆さんが来るんですよね、人にも見に来てもらえて、毎年花が咲くもんだから花のまちづくりをしようと思たんよって成功しているところもあります。比較的軽いですからね、花は。花のまちづくりしています。有名な徳島県の上勝町、きれいな葉っぱを集めて商いしているところがありますね。また、松山市内では、ある地区が、ある作物を耕作放棄地をお願いして借りて、お声かけてそれをつくってその地区の名物にしようとして動き出しているところもあります。先ほど三好部長が言いましたように、まちづくり協議会という組織、松山では手挙げ方式でやってるんですけど、いい組織ができたなら財源と権限をお渡ししましょうというまちづくり協議会という組織があります。これは松山41地区の中で10地区でできてます、準備会が2つそれに続いています。いい組織ができたらというのは、「わしが市役所から金とってきて、わしのために使うんじゃない」という組織だと、まずいですよね。ですので民主的ないい組織ができていけば、そしてうちやりたいって手挙げいただけたら、財源と権限をお渡ししましょうというまちづくり協議会という組織しております。こういうのができれば、いろんなできること広がると思いますので、まちづくり

協議会っていうのあるんだというの知っておいていただければと思います、よろしくをお願いします。

【男性】 ニューピオーネがブランド化になって補助金、新規に植えるときは補助金があるんですが、種が古くなって壊れかけみたいなところは補助金が出るので、新規のところやったら防風ネットとか防鳥ネットとか資材の補助金が出るんじゃないけど、古くなって壊れかけみたいなところは出んのやけど、そういうところ、高齢者が大分になって壊れかけのところもあるんですが、そういうところも補助金を出してくれたら助かると思うんで、よろしくをお願いします。

【市長】 種が終わりかけ、確かにわかるような気がします。大崎企画官これどうです。いったん持ち帰って。

【産業政策課長】 そうですね、実際のところは新規事業のみについて補助金を出さしていただいております、施設の中でも新たなものをつくるという場合には補助金を出しておりますが、今言われたような、種が古くなったのでという制度はございません、今のところ。また、検討するように農林水産課に話はさせていただきます。新たな補助制度ができるようであれば、またお知らせするようになりたいと考えております。

【男性】 テーマ全部にかかると思うんですけど、私は市街化調整区域の解除についてお願いしたいと思います。昨年の2月に松山市の都市計画のおおむね20年後の姿のマスタープランの説明会が当地伊台でありました。説明によると、伊台の将来像は豊かな自然に囲まれた田園居住のまちでありまして、地域づくりの目標として、1つは自然環境の保全と景観の形成、2つは良好な住宅環境の維持と向上、3つ目に田園集落地域の生活環境の向上が示されました。それはそれで立派な将来像であり、目標であると思います。しかしながら地域の実情を見ますと、ご案内のように伊台地区は市街化調整区域になっております。このため、既存宅地以外の土地には市の許可を得なければ住宅の建築ができません。こうした中で地域の農家、農業者は高齢化し、後継者の育っていない農家は耕作することができなく、耕作放棄地が増加しております。耕作放棄地の多くは基盤整備のできてない田畑は借り手もございません。また、土地を売りたいくても家の建たない土地は買い手がございません。加えて、農地として売るには5反以上所有という買い手の条件がございます。そして現在の農業情勢の中では、土地を買ってま

で広げようかという馬力のある農業者もあまり見られません。土地を売るに売れない、結果として一部には生活に困っている農家も見られます。この辺がうまく具合に売れるようになりますと、先ほどの集落にも家が建って人口が増えるという形にはなるんですけど。また、ペンペン草がおい茂っている耕作放棄地は、地域の端々はもちろんのことですけど、最近では県道沿線付近まで広がっている現状です。先に述べました都市計画の将来像、地域づくりの目標、そして今日の会のテーマでございます生活環境の向上、これに反した方向に、現在は伊台は進んでいるのではなかろうかと思うのであります。こうした現状に対処いたしまして、農家の生活を守り、立派な地域像を実現するためにも、市街化調整区域の解除が必要であるとの意見が多数私のところにも寄せられておりますので、ぜひ解除をお願いしたいと思います。調整区域の解除につきましては、市街化区域にしてほしいと言っているのではございません。元の白地に戻してほしいというお願いでございます。最後ですが、このような伊台のような状況は、市内の各地でも数多く見られると聞いておりますし、調整区域の解除は、東予の広域都市計画区域で実現した事例もございます。ぜひよろしく願いいたします。

【市長】 これは都市政策課長。

【都市政策課長】 線引き、都市計画区域の解除についてですけど、昭和55年、高度成長、右肩上がりの時代に、伊台地区、湯山地区もしかりなんですけど、かなり住宅団地ができました。住宅団地はいいんですけど、一方、乱開発による環境の悪化いうふうな意味で、昭和55年に都市計画区域を設定しました。それによって一定の規制をかけることによって、環境の悪くなっていくのを止めていった現状でございます。その後、今の現在になっているんですけど、先ほど言われましたとおり、昨年2月に松山市の将来像の都市計画マスタープランの策定に当たりまして、伊台地区で説明もさせていただきました。そのときにそういったご意見もありました。また、幅広く市民からの意見もいただきました。その中で、都市計画区域とか、都市計画マスタープランもですけど、法律に基づいて決定するものでございまして、幅広く伊台地区の皆さんの意見もお聞きすると同時に市民からの意見もお聞きした中で、審議会等を経て都市計画マスタープランが決定されました。それで、マスタープランの中に伊台地区の将来像をうたっております。そういうことを目指して松山市としても取り組んでいきたいと。確かに今

おっしゃられるとおり、調整区域だと農家でなければ家は建てることはできません。一般市民の方がそこに参入することができない状況ですけど、今現在では解除というのは非常に難しいと思います。

【市長】 これ全国結構いろんなところで悩んでいるところだと思うんですね。市街化区域、市街化調整区域、そして耕作放棄地どうしていくのか、少子高齢の時代になる、これどうしていくのか悩んでいるところだと思います、これ松山市にとって大命題だと思いますので、しっかりと受け止めて、またいい方法を考えていきたいと思います。いったん持ち帰らせていただきましょう。

【男性】 伊台地区は30年前、40年前から各団地を受け入れてきました。その中で上下水道関係、簡易水道頼っております。また、下水道設備も各団地等々やっておると思うんですが、20年、30年経ちますと老朽化もして、かなり補助をしてもらわんと維持管理ができん状態になっております。そのあたりはどういうふうに市役所は考えておるのでしょうか。

【社会福祉担当部長】 まず簡易水道について、現在、松山市で簡易水道を松山市の水道につなぐというのは非常に難しいと考えております。これは松山市全体で、今非常に水が不足をしておるという現状がまずあります。そういったなかで簡易水道を今上水につなぐと、全体的に水不足が解消されてないままで、伊台地区の方ももちろん、市民全体にご迷惑をかけるということで、今現在それは非常に厳しいという思いでございます。ただこの計画も、今現在進めております水の確保ができ上がった段階で、今伊台地区にある各簡易水道あるいは専用水道等も含めて上水道につないでいきたいとは考えてはいますが、水の確保がまだできておりませんので、もうしばらくお待ちをいただいて、今水計画でいろんな方策を立てておりますので、こういったものが進行する中で検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

【環境政策課長】 私からは大規模団地の集中合併の補助の関係のことですけれども、大規模団地における集中合併処理施設というのは開発の一つの条件になっておりました、そのときつくられていったものですが、今伊台地区では個人、個々の下水道が入らないところは個々の合併処理浄化槽という個人の方がつくられている施設で普及している地域になっております。個人の合併処理浄化槽もかなり個人の方が負担されておりました、例えば一番小さい5人層の合併浄化槽では維

持管理費が年間5万円ぐらいです。新築でつけるときに個人の負担が70万円くらい平均していただいております。そういった中で大規模の集中合併をつけられる団地の方々の負担がどれくらいかを聞いてみたんですが、個人がつけられる合併処理浄化槽の維持費よりは安いと伺っているんですけども、そういった意味で合併処理浄化槽については今補助をしている中で、そういう個人の負担が発生しておりますので、大規模の集中合併に補助をしていくのは、今の段階ではなかなか難しいのではないかと考えております。ただそういう浄化槽がだんだん古くなってきて、例えば一度に個々の個人個人が合併浄化槽をつけていくということになれば、今12万円の補助が出るんですけども、先ほど言いましたように新築70万円の個人負担がかかってつける、しかも維持費が5万円くらいいるという状況になってきますので、そのあたりを踏まえて、どういうふうにしていくかは、また団地の中でもお話をさせていただいてやっていただければと考えて、今の段階では、大きな集中合併の補助というのはなかなか難しいと考えておりますのでご理解いただければと思います。

【市長】 どうしても財政の話が絡んでまいりますので、松山市の財政についてご説明をさせていただきます。中四国の中で松山は比較的財政がいいと言われております、中四国の中では2番目にいいと言われております。じゃあ一番はどこなのかと気になるところですけども、徳島県の阿南市が一番財政状態がいいと言われております。人口7万人の市ですけども、青色発光ダイオードの大きな会社がありまして、その法人収入で大変潤っているということです。2番目に財政状態がいいと言われている松山市ですけども、今松山市で一年に出て行くお金の中で一番大きなウエイトを占めているのが、40パーセントを占めている民生費、いわゆる福祉にかかるお金です。この民生費の中に皆さんよく聞かれる生活保護費が含まれます。で、松山市だけで、民生費は1年間で50億増えたんです。生活保護費は1年間で20億円増えています、こんなペースです。こういう福祉にかかるお金が大変増えているので、今よく言われている税と社会保障の一体改革、これは一地方自治体の努力はもう既に超えていますよ、国全体の問題ですよということであの議論が起こっているわけですけども、この話に戻ります。皆さんも中学校のときに勉強の中で出てきたと思うんですけど、地方交付税交付金とか国庫支出金という形で国から地方にお金が回ってくる。しかしながら大もとの国は今

1千兆円の借金を抱えています。大もとの国が1千兆円借金を抱えているならば、地方自治体、1,800ある、県も含めるともっとですけれども、大もとが1千兆円の借金を抱えているんですから、地方に回ってくるお金がこれから増えるとはなかなか考えにくい。財布はこれ以上膨らみっこないのに、福祉にかかるお金が1年間で50億円増えたんだったら、どこかで絞らないと下り坂になる一方です。生活保護費も20億円増えたんだったらどっかで20億円絞らなければならない。そういうのがどこの今地方自治体でも置かれている現状です。このようにタウンミーティング重ねさせていただいて、今回で26地区目になりますけれども、皆さんからお声をいただきます。市長の人気取りということからすると、「あれやります」「これやります」「わかりました、これもやりましょう」ってやると私も楽です。市長の人気取りっていう意味からすると。でもそれはしない。やはり、やみくもにするわけにはいかない。こうやって皆さんからお声をいただいて、この厳しい財政の中で何を今やるべきなのか。優先順位をつけさせていただいて、きちんとした収支をやっていかないと、将来の子どもや孫につけを残すことにほかならないからです。だからといって皆様方からは、この話をすると大体皆様から手が挙がりにくくなるんですけれども、それは気にせずに意見は言っていたきたい。地方自治体そういうような状態になります。下水道の話も、松山市は、平成6年当時は160億円規模の下水道の計画を持ってたんです。でも厳しくなるのが予想されてましたから、2回改めました。160億円の計画から、80億円の計画に縮小して、もう一回見直して65億円の計画に見直しました。100億円縮小したわけなんですけれども、その100億円浮いたお金でほかのことをしようということだったわけなんですけれども、やっぱりこれだけ限られた状態になってきているわけですので、中でも財政状態がいい松山でもこんな状態ですので、なかなか厳しい状況ではある。でも皆さんからは、こういう声があるっていうのは絶対に寄せていただきたいんです。その声を活かさないと意味がないと思いますので、こういう状態を申し上げましたけれども、皆さんはこういう声もあるとお伝えいただく、それで優先順位をつけさせていただいて、今やるべきことをきちんとやっていこうと思いますのでよろしく願いいたします。

【男性】 下伊台の梅組の水道組合の責任者やっとります、よろしく願いします。先ほどの話にちょっとかぶるんですが、私、簡易水道で向陽ハイツと梅組と

で350戸ほど簡易水道を供給しとります。35年くらい前に発足してかなり施設が古くなりまして、全部自前で、水道料で賄って改修やらなんやらしよるんですが、ここにきて最近、送水管のやり替えとかポンプのやり替えということになり大きいお金がいております。今は借金なしでやっておるんですが、いずれこれも、先ほどの市長のお話じゃないんですけど破綻するかもしれん状況になっておりますんで、市につないでくれというのは難しかろうとは思いますが、そういうやり替えとか補修とかについて、何か補助金をいただけるようなことを考えていただいたら大変ありがたいと思っております。今年も約500万ほどかけてポンプのやり替え等の予定はしとるんですけど、残念ながら繰り越しが無い状況になっております。ひとつなんとかお金をいただけるようなことでよろしく願いたいと思います。以上です。

【社会福祉担当部長】 先ほどのお話にも一部関連はするんですが、現在松山市で持っております共同給水の設置補助金という規則がございますが、こういった中には、上水道または簡易水道の給水区域外であること、あるいは給水人口が20人から100人以下であること、そういった要件のもとで水質が不良であって飲料水に適さないという内容の要綱がございます。こういったものであれば、ということではあるんですが、今のお話の梅組さんにつきましては、もともと地元で設置いただいて今まで地元で管理をしていただいた簡易水道について、今現在松山市が老朽化の施設を何か補助をして改修いただくという補助制度を持っておりません。簡易水道については場所によっては、例えば中島あるいは釣島、こういったところもご自身あるいは簡易水道、中島なんかは簡易水道なんですが、利用料金が松山市内の2.1倍くらいの料金をいただく中で管理をいただいておりますという現状でございます。本来であれば、先ほども申しましたように松山市の水道局の管でつなげば一番いいんでしょうけども、今現在新しい水源確保ができておりませんのでそれもできないという現状なので、今の現状では地元で管理をいただくしかないのかなと思いますが、お答えになってるかどうかわかりませんが、どうぞよろしくお願いをいたします。

【市長】 私から、上水道について言い忘れがありますので言わせてください。水道の区域を広げようと思ったら厚生労働大臣の事業認可が要ります。新規水源の確保に一定のめどが立つまで認可が得られない状況ですけども、これは報道も

されておりますけども今、県、新居浜市、西条市、松山市の4者の協議会ができております。それまでなかなかできなかったことが、今できております。平成22年の9月にこの協議会ができたんですけども、それから大体3カ月おきくらいに、22年の9月、23年の1月、3月、5月、7月、24年、今年に入って1月、3月と合計7回、この4者で話をして、課題ですとか現状について話し合うことができるようになってまいりました。市民に向けての説明会も西条、新居浜、松山でさせていただきましたけども、やはり水のことは大変昔から繊細なことでありますので、きちっとステップを踏んでやらなければならないと思っております。この協議会を重ねられているということは、ステップを踏めていると思しますので、これからも誠心誠意、一生懸命努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

【男性】 自主防災会でございます。先ほど市長が財政の話をしたので非常に言いにくくなったんですけど、松山市の自主防災連合会には大きな支援をいただいておりますことをお礼申し上げます。なおこれを継続してもっともっと増額してほしい、こんな気持ちでおるんですけども、財政の話を知るとなかなか言いにくくなりました。そこでマスコミとか行政、今自主防災組織ということを盛んに宣伝をしてくれております、あまり嬉しくはないんですけども。東日本大震災では津波ということで、松山市も北条地区から垣生地区へ海岸通り大きく抱えておりますので、津波、海のほうに非常に神経が偏っているじゃないかと、当伊台地区におきましては大雨の後、南海地震でも来たときには、大変なことになる山津波があります。このほうへも行政大きな目を向けていただきたい。時間がありませんのでこの点ひとつよろしくお願いいたします。

【消防局企画官】 伊台地区につきましては、やはり津波は全く関係ない地域ですので、土砂災害が最大の心配だろうと思っておりますが、今、国の方で防災計画を見直しております、先般、震度分布と津波高の変更がございました。南海地震の震度が震度6弱から震度6強に変更になりましたけど、震度6弱の従来の震度分布の中でも、松山地域の震度6弱が存在する地域は沿岸部と市街の中心部の一部でございます。その従来の震度分布の中で、震度6弱の下が震度5強ですが、それも市内地域に限られておりまして、山間部は従来の南海地震の震度5弱の地域でございます。ですから伊台地域は震度5弱の震度分布になっておりますという

ことで震度5強に修正されましても、あくまで想定ですが、そういった震度分布が市内の各地域でも異なってまいりますので、震度6強が伊台地区に存在するとは限らないと今のところは考えておりますので、震度6強の震度によって山崩れが起きるとか、そのときの雨量にも影響されると思いますけど、震度6強、津波高が3.5メートル、それがそのまま松山市に影響するという考えでは今のところはございません。

【市長】 ちょっと私から一つ、皆さん昨年の3月の頭に全戸配布させていただいた「松山防災マップ」、ご覧になったことあるでしょうか。こういうのがあったって記憶してる方、手を挙げていただけますか。ありがとうございます。おろしてください。じゃあ中身までしっかり見たよという方、手を挙げていただけますか。結構見ていただけてますね、ありがとうございます。実は、この全戸配布が終わった後に3月11日の東日本大震災が起こったわけですが、これが全く役に立たなくなったわけではないんです。以前の防災マップと改訂版になるんですけど、例えば黄色い蛍光色をちょっと目立たせるためにつけてる地区、場所があるんですけども、愛媛大学の矢田部先生という防災の専門の先生にも入っていただいて、実は目の不自由な方はその派手がましい蛍光色だと逆に見にくいんだそうで、ちょっと抑えた蛍光色にした。そういうところまで配慮しての防災マップです。本当に役立つことが書いてあります、各地区の状況も書かれておりますので、ぜひお帰りになったら詳しく見ていただいて、防災に役立てていただけたらと思います。この中にも書いているんですけども、何らかの災害に遭っている人は80パーセント、じゃあ家具の転倒防止材をつけましたか、つけたよっていう人は20パーセントなんです。案外できてないところもありますのでこれを役立てていただけたらと思います。

【男性】 向陽ハイツはできてから30年くらい経つんですけど、235戸くらい住んでおります。大体630、40人くらいいるんですけど、先ほど桜組から上下水道の設備の件でいろいろお話いただいたんですけど、大野課長さんからそれはありませんという話だったんで大変申し訳ないんですけど、今の市の財政から見ましたら、なかなか下水道をこの近くまで引き上げてくださいますよと言にくいんですけど、現実的に我々の団地からすれば30年間くらいはきれいな水をしながら、また地域の土地改良区の皆様のご協力をいただきながら伊台川に流して、

生活をしているわけです。当然コンクリートでできている品物ですから老朽化もしてまいりますから、そういう意味で先日、下水道部でもいろいろお話行ったんですけど、この浄化槽の設置補助制度、これから見ると大体小規模から200人くらいまでのところしか対象にならないということだったんで、現実この伊台地区には何個か大きな団地があると思いますが、それは当然自らが下水を処理しながら使わしていただいているということになるんで、いずれそういうところも何らかの対策が必要なんじゃないかと思っておりますので、今日、明日何とかしてくださいとかいうことじゃないんですけど、長い目で見た対策も生活環境を守る上という意味では大切じゃないかと思っておりますので、ひとつ頭の中に置いていただいて、多分この財源で行くと、いつまで経ってもいかなのじゃろなと思っておりますが、そういうことも含めてお願いしたいと思うし、その範囲を少し拡大してもらいたいと思っております。

【市長】 私から言わせていただきます。それぞれ各部門の専門家であります、また何よりも先に一人の人間でありますので、しっかりと皆様の声は受け止めさせていただきますと思います。で、私考えますのにやはり、どこもこれ苦勞してんですけど、例えば放置自転車対策、今までのやり方がどうだったのか、今までのやり方がよかったとしても、時代に合わせていっそのこと組み替えたほうがいいんじゃないかとかそういうことも考えますので、これからも皆さんの声を真摯に受け止めて、時代の変遷も加えて何をすべきなのか、これからもしっかりと考えていきたいと思っております。耕作放棄地のことですか、上下水道のこととか、よくよく伊台の方の声を受け止めさせていただきますして、ありがとうございます。

先ほども申し上げましたとおり、耕作放棄地、これも本当私も何とかしたい。中でも言いましたとおり、私自身に農業体験があります。農業って国の基本だと思いますので、何とか組みかえといいますか、国全体の話でもあると思っておりますけど、何かできないかと思っております。耕作放棄地の問題もそうですし、上下水道の問題もそうですし、しっかりと受け止めさせていただきます。今、アンケートも書いていただいておりますけれども、どうぞご記入ください。また、今日なかなか手挙げれなかったんよ、挙げにくかったんよという方いらっしゃると思いますので、市長へのメールで意見を届けていただく制度「市長へのわがまちメール」、ハガキでももちろん結構です、寄せていただく制度もありますので、利用して

いただいて、市政への声をいただいたらと思ってます。皆さんの声をいただいて、そして今何をなすべきかを考えていきたいと思imasuので、これからも地域地域のまちづくりにお力を貸していただいたらと思imasu。今日は長い間ありがとうございました。

—— 了 ——